

プロジェクト所在地	兵庫県 養父市	設計施工者の選定期期	事業構想段階
業務委託者名	養父市 市民生活部 まちづくり文化交流課	CM業務契約期間	2022年5月1日～7月17日/2023年5月1日～7月16日/2024年5月1日～7月14日
業務委託者の所在地	兵庫県 養父市	共通業務	発注者の目標・要求の確認と更新/プロジェクトの推進と管理/設計者・施工者・監理者の選定と発注/プロジェクト構成員の役割分担の明確化と更新/プロジェクト情報管理/プロジェクトにおけるリスクについての説明
業務委託者の種別	法人		
応募者名	関西大学 環境都市工学部 建築学科 都市設計研究室	事業構想・基本計画段階	事業構想/基本計画
応募者の所在地	大阪府 吹田市	基本設計段階	基本設計の方針検討
CM業務を行った段階	事業構想段階/基本計画段階/基本設計段階/実施設計段階	実施設計段階	実施設計の方針検討
CMRの選定手法	特命	工事施工段階	工事施工準備/工事施工/竣工・引渡し
設計と施工の発注形式	その他(自主設計・自主施工)		
CMR業務概要	応募者の役割、関わり方 マネジメントの概要 マネジメントによる成果で特筆すべき事項：発注者からナツフェス構想時に依頼され、事業構想から運営までCMRとして関わった。 ：伝統的なお祭りの後継となるイベント時、公共施設の小路の新たなあり方を思案するための技術的サポートと推進・運営マネジメント。 マネジメントによる成果で特筆すべき事項：多くの人が訪れ小路に賑わいを生み出すことができた。イベント終了後も飾りがそのまま展示されたりと、長期的にも貢献することができた。		

プロジェクトの概要・【テーマ1】求められたこと

【テーマ2】CMRが目指したこと

【テーマ3】CMRが取った手法

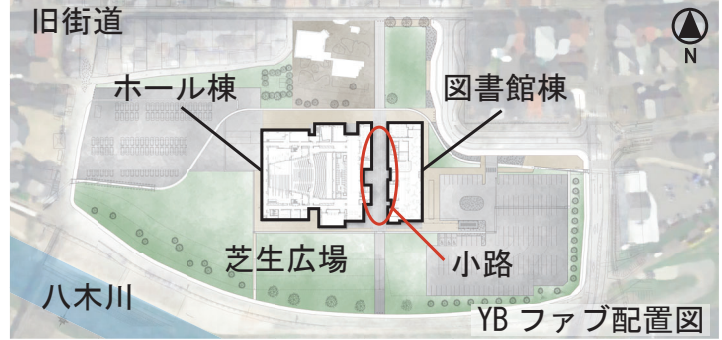
兵庫県養父市にあるやぶ市民交流広場(YBファブ)は、旧八鹿町に立地するが、旧四町である八鹿町、養父町、関宮町、大屋町を統合する象徴として、建て替えられた経緯がある。

120年余続いた伝統行事「八鹿夏まつり」が協賛金等の問題で継続困難となり、それに代わる市の祭りとして、「YBファブのナツフェス」を位置付け、養父市がホール棟と芝生広場で開催。本研究室はそれらの間に位置する、旧街道と八木川を繋ぐ小路の果たすべき役割を企画・デザイン・施工・運営をするよう、発注者である養父市より求められた。



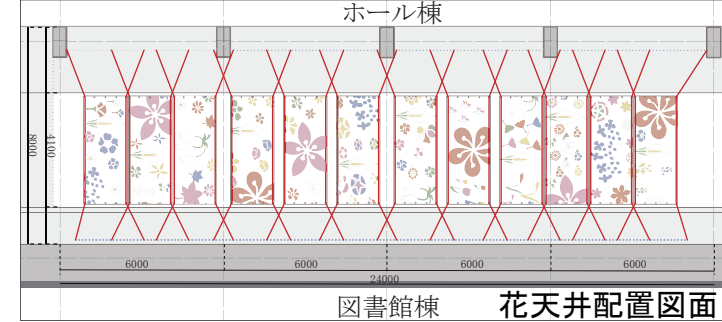
2024 年度フライヤー

YB ファブのナツフェス実施日
2022 年度 : 7 月 17 日 (日) / 2023 年度 : 7 月 16 日 (日)
2024 年度 : 7 月 14 日 (日)



【テーマ3】CMRが取った手法

②-1 市花と町花を用いたオリジナルの天幕の使用
YB ファブ建設時に仮囲いとして使用されていたブロック塀に、市民 WS で市花と町花を描き展示され、地域の人たちにとって馴染み深い風景を作り出していた。その壁画デザインを継承するために、本研究室で連続写真から立面図を作成し、小路でのイベントにおいて小路を彩る天井幕（通称、花天井）を制作し、ナツフェスの第一回目の 2022 年度から使用した。



②-2 容易な施工

YB ファブの底には花天井を吊りやすいように、ヒートンが設置されているため、花天井の設置は2人で3時間ほどで完了することができる。3年間とも花天井に吊り下げる仕様とした上で、軽量の傘や風船、フラッグを使用し、施工時間を短縮した。また、ナツフェス開催日は毎年 35 度を超える気温が予想されたため、現地での外の作業を減らすために 6 月から本研究室で事前準備として可能な制作を行った。

①空間に関する目標ーストリートミュージシャンの弾き語りをイメージした空間づくり

ナツフェスの開催会場であるYBファブは、音楽中心のホールとしてコンセプトがまとめられ、設計・施工において技術的にアコースティックな音質を実現させた経緯がある。また、若手音楽家の登竜門として開催されているビバホールチェロコンクールに代表されるように、養父市はスタートアップ支援に力を入れているという背景がある。そこで、私たちはナツフェスにおいて、ストリートミュージシャンの弾き語りをイメージした空間づくりを目指した。

②空間に関する目標ー人の視線の誘導

但馬地域に属する養父市は天気が変わりやすい気候風土であるため、養父の空を光によって表現することで、人の目を空に向けることを目指した。

③意識に関する目標ーナツフェス参画の意識づくり

ナツフェスが八鹿夏まつりに代わる新たな祭りとして何年も続く行事となるためには、今後、住民の参画がより重要になってくると考えた。したがって、住民のナツフェス参画への意識づくりを目指した。

このように空間に関する目標を2つ、意識に関する目標を1つ、明確に立てることにより、関係者全員の進むべき方向を統一し、プロジェクトが円滑に進むよう調整を行った。



③ 地域の子供たちと小路をつくるワークショップ

2022年度には傘を花天井に吊るしたアンブレラスカイ、2023年度には風船を花天井に吊るしたバルーンスカイを行った。これら2つは多くの来場者に楽しんでもらえたが、本研究室のみで施工していたため、八鹿夏まつりに代わる市民の祭りとなるべく、さらに地域住民の参加が必要であると感じた。



そこで、2024年度は、来場者の子供たちと共に小路を彩るWSをイベント内で開催した。WSでは8個のランタンに絵を書いてもらい、本研究室が設置したフラッグスカイと併せて小路のデザインを完成させた。学生ならではの親しみやすさから、約60人の子供たちに参加いただけた。2025年以降も地域住民の参加割合を増やしていきたいと考えている。



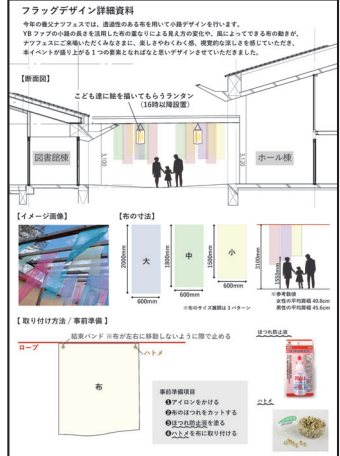
① 本プロジェクトにおける着目した課題

- ① 低予算での設えの実現
- ② 養父市らしさの実現
- ③ 子供たちのナツフェスへの参画

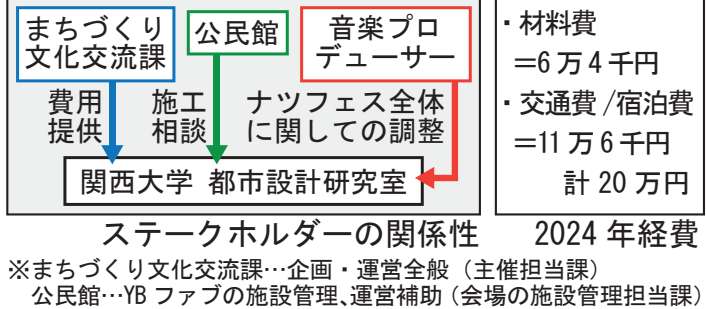
② 課題解決にどのような方法を提案したか

① 安価且つ学生による実施

課題点より、持続可能性の担保に着目し、安価且つ学生による実施で行うこととした。(2024年実行期間: 5月30日～7月14日)企画・計画段階は、2名の学生で関係者との調整を行い、学生のみで施工が可能なデザインを考案した。2024年度の施工準備は学生7名、当日のワークショップ(以下、WS)運営は、8名の学生で行った。



発注者とのフラッグスカイやり取り資料



【テーマ4】CMRが受けた評価

①CM業務の完了に当たり、プロジェクト目標の達成度とCMR業務の達成度

予算内・期間内に事業を進め、多くの地域住民を集めることで賑わいを創出することができ、発注者からも毎年好評を得ている。また、地域住民によってデザインされたオリジナルの天幕を使用したり、WSを開催したりするなど住民参画型にすることで、養父市を住民自らつくっていくというシビックプライドを育むことができたと考えている。

②発注者の評価

「八鹿夏まつりの代わりと位置付けるナツフェスが開催される YB ファブにおいて、養父市の要望を踏まえアイデアから設営・運営までを担い、小路に象徴性と賑わいを生み出してくれた。毎年、来場者からの評判もよく、特に年々若い人の参加者が増えていることを喜んでいる。今後も大学との協働によって持続的にナツフェスを発展させたい」という評価をいただいた。

③本選奨応募にあたり、最もアピールしたいこと

アピール点
◎大学の研究室が公共事業に関わっている
◎市民参加支援には、学生の参画が適切である
◎研究室及び学生によるCMRであれば、企画・設計から施工、運営に至るまで年度を越えて関与できる

上記3点より、過去3年間のナツフェスにおいて発注者だけでなく、地域住民からも高評価をいただいた。ナツフェスの成功例は、学生によるCMRが短期的なイベントにおけるハードとソフト両面のマネジメントの実践モデルとなり得ることを示している。